

新潟市歴史資料だより

資料紹介

舞潟 安宅家文書

安宅家文書は、江戸時代後期に舞潟村（江南区舞潟）の組頭を務めた安宅家の文書です。江戸時代中期から明治期に至る約600点の文書群で、平賀の誓慶寺の文書を一部含んでいます。江戸時代の文書には、検地帳や村明細帳、年貢割付状の外、多くの質地証文があります。

掲載した文書は、嘉永7（1854、7月安政改元）年4月に、舞潟村の組頭の久兵衛が新潟湊に詰めていた役人に出した文書です。当時、舞潟村は幕府領で、出雲崎代官所が支配していました。役人は、代官所から年貢米の検取のために新潟湊へ出張していたと考えられます。久兵衛は、「年貢米を船で新潟湊へ運送（川下げ）し、検査を受けたところ、拵え方の

良くない俵があり、厳しいお叱りを受け、恐れ入ります。更にお願ひするのも恐縮ですが、今後は充分に気を付け、決して粗雑にならないように村役人が心がけるのはもちろん、帰村して村人一同にも充分言い聞かせるので、今回はなんとか許してほしい」と願っています。

越後平野各地の諸藩や幕府領の年貢米の多くは、信濃川や阿賀野川などの舟運を利用して新潟湊に運ばれました。これを川下げと言います。各河川の舟運業者には、株仲間（同業者組合）を組織している者もあり、この株仲間は船道と呼ばれました。舞潟村が面する信濃川本流の新潟一長岡間では、長岡船道（長岡町の株仲間）が貨物を独占的に運送していました。舞潟村の年貢米も長岡船道の船によって川下げされたのでしょうか。

ところで、差出人の久兵衛は、「上乗与（組）頭」と記されています。上乗

とは、川下げの間に船頭や水主（水夫）が米の抜き取りなどの不正をしないように監視するため、船に同乗する村人のことです。久兵衛は、川下げをする長岡船道の船に同乗し、新潟湊で年貢米の検査を受け、俵の拵え方が良くないと叱られたのでしょうか。



乍恐以書附奉願上候

今般私共村方御廻米川下仕、御改奉請候処、俵振等不宜分茂相見、都而心得方等閑之旨嚴重蒙御察當を

一言可申上様無御座奉恐入候、右二付願上候茂恐入候御義ニ御座候得共、已來ハ何様ニも

心付、決而籠略之儀無之様、村役人共心懸候義ハ勿論、帰村仕候而一同江厚ク

可申間候間、格別之以

御慈悲を御有免之御沙汰被成下置度

奉願上候、右願之通り御間濟被下置候ハ、難有仕合奉存候、已上

嘉永七寅年四月八日

舞潟村

上乗与頭

久兵衛

新潟湊御詰

御出役様



明治17(1884)年の舞潟村周辺(平凡社『新潟県の地名』添付地図より)

「(仮称)新潟市文書館」の整備計画について

歴史文化課では市域の歴史資料（古文書等）や歴史公文書を調査・収集し、保存・公開する文書館のあり方について検討する文書館整備検討委員会を平成22年から7回開催し、平成25年3月に「文書館整備基本計画」を策定しました。

市では様々な公文書等が日々作成され蓄積されています。これらの公文書は、市政のあゆみを刻むものであり、市民共有の知的財産として後世に残していく必要があります。一方、当市では『新潟市史』『新潟歴史双書』などの編さんや、地域資料の保存・活用をしてきましたが、さらに「新潟をよく知りたい」という市民の皆さんの要望に対して、最新の歴史情報などの基本的なデータを提供したり、様々な活動を支援することが求められています。

そこで、様々なタイプの新潟市の歴史的な資料を保存・活用し、市民の皆さんのために役立つ施設として「文書館」が必要となります。

新潟市文書館は、ア) 歴史公文書の保存・活用による行政情報の共有と説明責任の実現、イ) 地域の歴史・文化遺産の継承と地域文化の発展への寄与、ウ) 調査研究に基づいた歴史情報の発信と市民支援体制の構築という3つの基本目標を掲げ、この目標を実現するために、1) 資料保存、2) 調査研究活動、3) 歴史編さんと情報発信、4) 資料・歴史情報の公開・提供という4つの基本機能を備え、下図の基本的事業分野にあたる活動を展開します。

新潟市文書館の特徴は、歴史公文書も古文書等の地域の歴史資料等も同等に扱う「文書館」であること、新潟市域の歴史研究とともに新潟市の市政史(政

治・制度・政策の歴史)の研究・編さんを行うこと、新しい歴史刊行物の開発や充実した資料相談サービスを展開すること、などです。

文書館の施設は、交通の便がよく、市民の利用しやすい場所に設置します。また、津波や水害による浸水等の災害に備えた対応策を検討します。施設整備にあたっては、既存施設の有効活用等を考えています。

文書館は、次の4つの機能を果たす施設にしたいと考えています。

- 1) 資料保存機能：歴史公文書及び地域の歴史資料（古文書等）を収納する収蔵庫、貴重資料や低温・低温で保存すべき写真関係資料等を収納する特別収蔵庫、資料を受け入れる作業を行うための搬入荷解室・くん蒸室、電子文書やデジタルデータを蓄積する情報処理室など。
- 2) 調査研究機能：歴史公文書及び地域の歴史資料（古文書等）の整理や調査を行う整理作業室、写真撮影室など。
- 3) 情報発信機能：文書館の調査研究成果を講座や展示などで市民に公表したり、文書館の情報発信を担う映像装置を備えた講座・映像室や展示室など。
- 4) 歴史資料の公開・提供機能：市民の利用窓口として、来館者の調査相談に対応するカウンターを備えた一般閲覧室。大型の絵図等の資料を広げることができ、談話なども可能な特別閲覧室。閲覧に供するための図書や複製簿冊を収蔵・配架する書庫など。

この外、軽い食事等のできる喫茶コーナーや屋外に駐車場や屋根付き駐輪場などもあり、市民の皆さんが気楽に立ち寄れる、役に立つ施設を目指します。

とはいえ、現在は新しい文書館の設置場所が決まっているわけではありません。歴史文化課では、策定した「文書館整備基本計画」に沿って、文書館の設置場所の候補となる既存施設を検討するとともに、充実したよりよい施設になるように、準備を進めています。

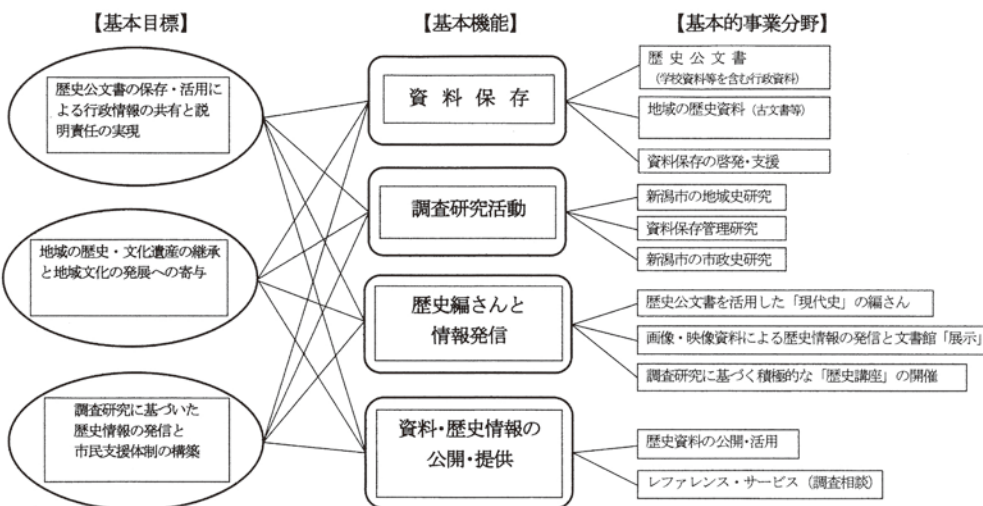


図 新潟市文書館の基本体系

新潟の歴史こぼれ話 (4) — 初期の“新潟まつり” —

『新潟市史』通史編5には、「昭和31(1956)年8月、新潟まつりは、市民挙げての祭りとして面目を一新した。それまでは新潟まつり協賛会が組織されていたが、「住吉祭」・信濃川の「川開き」・「商工祭」・「開港記念祭」の四つが別々に運営されていた。これを一本化し、「新潟まつり」として挙行することになったのである」とあります。つまり、4つの祭りを一本化した新潟まつりは31年に始まりましたが、“新潟まつり”という名称はそれより前から使われていたのです。いつから“新潟まつり”という名称が使われるようになったのでしょうか。また、どのような過程を経て、4つの祭りが一本化されたのでしょうか。

今年4月、新潟商工会議所から、昭和初期から平成期にかけての約170点の文書が寄贈され、その中に昭和20年代後半から30年代の商工祭や新潟まつりに関する文書が含まれていました。これらの文書から“新潟まつり”の名称と、初期の新潟まつりについて概観します。

まず、昭和26(1951)年7月7日付の「新潟まつり外客誘致打合せ開催の件」という文書を見てみましょう。この表題から、すでに26年の段階で“新潟まつり”という名称が使われていたことが分かります。さらに文書には「新潟市の最大行事である川開、商工祭、開港記念祭も近づき、今年度より総称して新潟まつりと呼び、連合会を作り、広く外部に宣伝し、日本の新潟まつりに迄飛躍させて行き度いと存じます」とあります。つまり、26年から川開き・商工祭・開港記念祭の総称として“新潟まつり”の名称が使われるようになり、連合会が結成されたのです。この連合会とは新潟まつり連合会のことです。「新潟まつり連合会会則」によれば、会の目的は「川開・商工祭・開港記念祭の事業を協賛し、之を助成すること」となっています。26年には、川開き・商工祭・開港記念祭の総称として“新潟まつり”の名称が使われるようになり、それぞれの事業を協賛・助成する組織として新潟まつり連合会が設立されたのです。

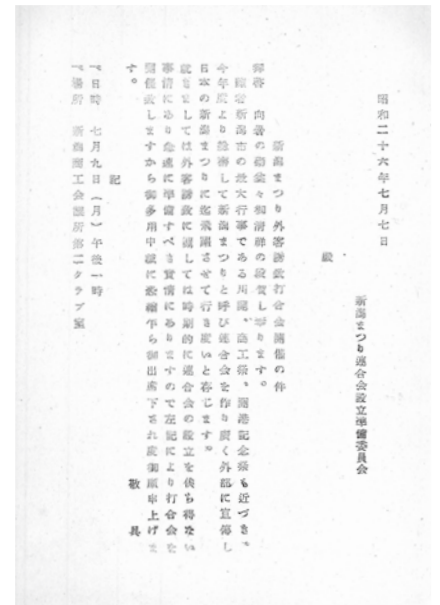
次に、昭和27年6月13日付の「新潟まつり協賛会役員委嘱について」という文書を見てみましょう。文書には「特に本年は、経費の合理性を考え、一面市民の戸別割当寄附を避けることを目的として市助成を対

象に新潟まつり協賛会を設立し、これが新潟まつりを実行致すことになりました」とあります。27年度の「新潟まつり協賛会会則」によれば、会の目的は「川開、商工祭、住吉祭、開港記念祭の事業を行うこと」となっています。27年には、市民への戸

別割当て寄付を

止めて、市からの補助金を受けるために、新潟まつりの主催者としての新潟まつり協賛会が結成されたのです。ただし、会則によると、協賛会には、川開・商工祭・住吉祭・開港記念祭の4つの部が置かれ、各部ごとに実行委員会が設置されています。それぞれの事業の実際の運営や会計経理は、各部ごとに別々に行われていたのです。

最後に「昭和31年度 新潟まつり実施上の改正点」という文書を見てみましょう。文書には、「一、会計経理 1. 会計経理事務は一切経理部に於いて取扱う。(中略) 二、式典 従来四祭部に於いて個々に行っていた式典は統一する(後略)」とあります。これまで4つの部で別々に行われていた会計経理が一本化され、経理部で行うこととなっています。31年度の「新潟まつり協賛会会則」によると、それまでの会則にあった「本会に左の部を置く。川開、商工祭、住吉祭、開港記念祭」という条文がなくなっています。また、それまで「川開、商工祭、住吉祭、開港記念祭の事業を行うことを目的とする」となっていた会の目的が、「新潟まつりの事業を行うことにより観光客を誘致する事」となっています。つまり、31年には協賛会の会則が改正され、従来の4つの部が廃止されたのです。同年の「新潟まつり協賛会組織系統図」によると、会長一副会長の下に実行委員長、その下に企画部会長・行事部会長・経理部会長が置かれています。これまで4つの部で別々に行われていた各事業の運営・会計経理が一本化され、「新潟まつり」として、名実とも一体的に行われるようになったのです。



昭和26年7月7日
「新潟まつり外客誘致打合せ開催の件」

写真紹介

南山の諸施設

明治44（1911）年測図の2万5,000分の1地形図によると、現在、日本海タワーが建っている中央区旭町通二番町の砂丘の高台は、標高25.8メートルで、市街地に接する最高所でした。この高台は南山と呼ばれ、明治期から昭和期にかけて、高台であることを活かした様々な施設が建設されました。

写真1 明治24（1891）年に竣工した新潟測候所（現、新潟地方气象台）です。測候所は14年に学校町通13番地（現、新大歯学部付近）に設置されましたが、庁舎が狭隘きょうあいになったため南山の高台へ移転しました。『新潟新聞』は「気象観測の位置として恰当こうとうの地なり」と報じています。建物の左側にある柱は天気予報の信号標で、丸や三角の筒を揚げて市民に翌日の天気を知らせました。測候所は、昭和3（1928）年に西船見町に移転しました。

写真2 明治43（1910）年に完成した市営水道の南山配水所（現、南山配水場）です。配水所には貯水池が2つ掘削されました。いずれも長さ30.3メートル、幅13.6メートル、深さ6メートルの大きさで、6万5,000人に16時間給水できるものでした。連なっている三角形の屋根は貯水池の上屋です。市営水道は寺地（西区寺地）で信濃川から取水した水をポンプで関屋（中央区関屋）の浄水所に送り、さらに南山の配水所へポンプで送り、そこから自然流下で市内各地へ送水する方式でした。

写真3 南山の高台を海岸側の上空から撮影した写真です。配水所の三角形の屋根の両側に立つ鉄塔は、昭和6（1931）年に開局したJOQK新潟放送局（現、NHK新潟放送局）の高さ55メートルの鉄塔です。局舎は配水所の西隣の測候所跡地に建てられました。放送局の設置場所については、山ノ下や萬代橋西南の信濃川埋め立て地なども候補地でしたが、電波の広がり方を考慮して高台の南山の地に決定しました。その後、放送局は昭和36（1961）年に弁天町へ移転しました。

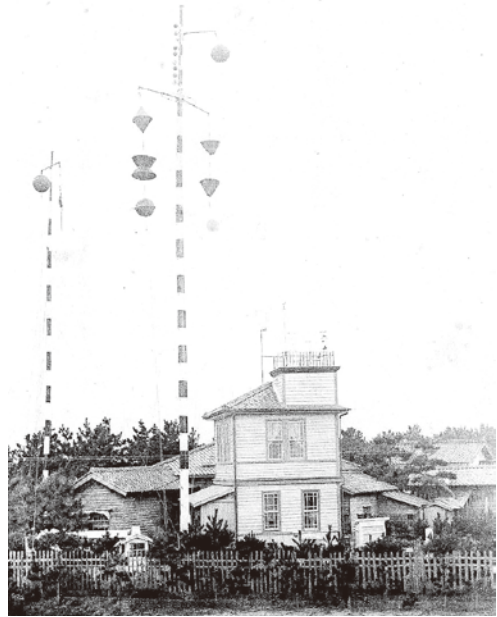


写真1 新潟測候所

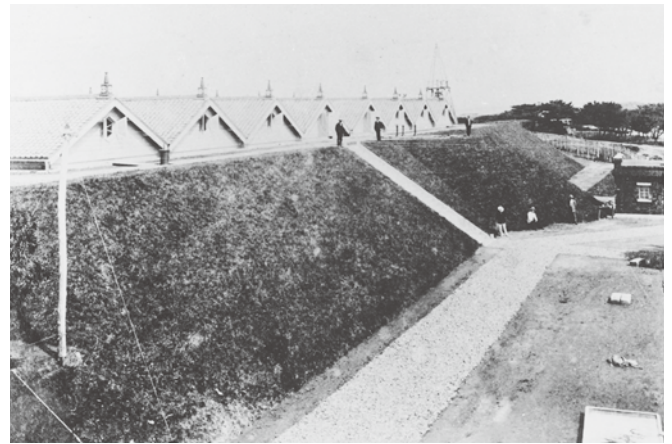


写真2 南山配水所



写真3 上空からみた南山の高台

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、ご連絡ください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化観光・スポーツ部
歴史文化課（担当：歴史資料整備室）
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp